

第7回サポーターズミーティングの開催結果について

1. 日時：令和4年5月30日(月) 19時00分～20時30分
2. 場所：311会議室及びオンラインによる開催
3. 次第：
 - ① 県庁舎跡地整備基本構想について報告
 - ② 「サポーターズミーティング」の総括
 - ③ 暫定供用期間中における利活用支援の仕組みづくりについて
4. 出席者（敬称略）：

名称	所属等
荒木 ゆい	江戸町自治会青年部 部長
岩本 諭	つくるのわデザイン 代表
江口 忠宏	DEJIMA BASE 代表
高浪 高彰	長崎雑貨 たてまつる 店主
森 恭平	江戸町自治会青年部 役員
安元 哲男	アートクェイク 代表

5. 開催結果

県庁舎跡地整備基本構想を6月に公表することから、これまでサポーターズミーティングにおいていただいたご意見の反映状況等について総括するとともに、今後の方向性について意見交換を行った。

【主な意見等】

(1) サポーターズミーティングの総括

- マクロ的な視点の概念的議論と、ミクロ的な視点の切り分けが十分ではなかった。
- 街中の賑わいづくりと県庁跡地をどう関係づけていくかという視点が得られたのは良かった。
- 多様な視点で議論ができた。
- コロナ禍で難しい部分はあるが、もっと現場（県庁跡地）に出て議論を深

められたらよかった。

- 途中からサポーターズミーティングの位置づけがわかりにくくなってしまった。
- 小さくでも賑わいづくりのイベントができたことは良かったが、こういった役割を進めていけばよいかわからなくなることがあったので、県やほかのメンバーとの連携がもっとわかりやすい形になっていると継続性につながると思う。

(2) 暫定供用期間中における利活用支援の仕組みづくりについて

(※整備運営体制については基本構想の概要 P.15 を参照)

- プレ運営組織の議論をもう少しやっておくべきだったと思う。新しい仕組みづくりの最初の段階でやっていく必要がある。
- 運営支援の委託事業者については、単純な(定例的なことだけをやるような)指定管理にならないでほしいと思う。新しいことを始める一方で、地域の思いを持った方々の話を丁寧にヒアリングすることが重要。
- また意見を言うだけの場のような団体ができてしまうのではないか気になる。プレーヤーが集まって話せるような場を作らないと、誰が主体になるか次第では、協力していく体制にならないのではないかと危惧している。
- いままでは議論の中で「こんな街になったらいいなあ」というワクワク感が欠けていたと思う。次に進んでいくときは楽しみながらやれる感じが必要。楽しいところには関わろうとする人が集まってくるし、そういった視点が持続可能性につながる。
- 整備が完了したときに、自分事になっているように意識させるにはどうすればいいかということを考えていく必要がある。県庁跡地という長崎のオリジナルな場所の特性を出しながら、一般の方々はどう受け入れてもらえるかを考えながら動いていくべき。
- トライアンドエラーで、何かしらテーマをつけて気軽にやってみて、並行して枠組みを考えていくような、両輪でやっていけたらいいと思う。
- 今回の新たな仕組みづくりの理念は具体的に整理したほうがいい。

6. 今後の進め方等

- サポーターズミーティングメンバーには、引き続きアドバイザーとしてご意見等をいただきながら、運営の仕組みづくり等について議論を深めていく。

以上